

平成 24 年 5 月 28 日

報道関係各位

株式会社オリエンタルコンサルタンツ
代表取締役社長 野崎 秀則

河川の維持管理における河川巡視・点検システムの開発

～ 河川の維持管理の効率化・高度化を目指して ～

当社は、河川の維持管理の効率化・高度化を図るために、GISをベースとする「河川巡視・点検システム」（以下、本システムと称する）を開発しました。本システムは、本年4月より直轄管理河川において一部導入されています。

本システムは、河川の維持管理行為の基礎となる巡視や点検において、データの入力や管理面で支援することを目的とし、次の開発方針の下、維持管理の実務者が容易に使いこなせること、さらに導入に際してのインシヤルコストを抑えることを念頭に開発を行いました。

なお、本システムは、昨年1月に特許を出願した「現場点検支援システム」をベースに開発を行っています。

<システムの開発方針>

- ① 巡視や点検でのデータ入力・管理についてGISをベースとしたシステムにより、維持管理の効率化、高度化を実現する。
- ② 計画的かつ適正な維持管理の実践のために、工学的知見に基づく状態把握と判断を支援する。

国土交通省の河川事務所だけでなく、地方自治体が管理する河川においても、今後は維持管理の効率化、高度化が求められています。インフラ施設の維持管理の業務を多く手がけている当社では、データの蓄積・整理、さらにデータの体系化のご提案はもとより、本システムの高度化、複合化によりインフラの維持管理から発展する様々な技術をご提案してまいりたいと考えています。

また、河川以外の道路や公園などインフラ施設全般の維持管理の効率化・高度化の適用に向けて、クラウド等の技術を導入することによるシステムのパッケージ化についても検討を継続してまいります。

以 上

<本資料に関するお問い合わせ先>

株式会社オリエンタルコンサルタンツ
TEL:03-6311-7551 FAX:03-6311-8011
URL: <http://www.oriconsul.com/>
本社・統括本部 三百田、伊藤

河川巡視・点検システムの特徴

効率化

◆「携帯端末の活用」による効率化

- 現場で携帯端末に入力した内容による“データベースへの自動入力”、“日誌の自動作成”が可能。
- データベースにあるデータを携帯端末にダウンロードし、“過去データを現場で参照”することが可能。



◆「巡視・点検・施設諸元の一元化」による効率化

- 「巡視・点検・施設諸元の一元化」をすることにより、“情報の整理・検索の効率化”を実現。
- 例えば、巡視・点検結果の同時閲覧や、複数の情報を集約した帳票（河川カルテ等）の自動作成が可能。



高度化

◆「見える化」による適切な判断

- 巡視・点検結果を「見える化」することで、巡視・点検の計画作成の適切な判断を支援。
- 例えば、過去の異常発生傾向を踏まえた、ルートや実施頻度の見直し（重点化）を支援。



◆「過去データの活用」による適切な判断

- 「過去データを活用」できるように、GISを用いたデータベースで管理することで、対策立案等の適切な判断を支援。
- 例えば、過去の類似データを検索し、類似データの対応判断と経過観察の結果を参照した上での新規箇所への判断を支援。



※「巡視・点検・施設諸元の一元化」及び「見える化」による適切な判断は、弊社技術(特願2011-33939「現場点検支援システム」)をベースに開発